

## コンテンツ一覧

前号より配信を開始した材料証明メルマガの2回目の配信となります。

内容は下表のとおりです。

該当ページ	コンテンツ
2	【イベント開催のご案内】 GBRC材料技術セミナー（参加費無料）開催のお知らせ
3	【ワンポイント情報】性能証明取得への準備について
4	【証明事例】環境負荷低減への取組み
5	2020年10月に制定・改正された主なJIS

【イベント開催のご案内】  
GBRC材料技術セミナー（参加費無料）開催のお知らせ

GBRC材料技術セミナー

今年度も当法人の材料証明事業に関する情報提供に加え、コンクリート業界の動向などに関する特別講演を「**GBRC材料技術セミナー**」として開催することとなりました。

コロナ禍の折、開催方法については、Web を活用した期間限定の無料動画配信とさせていただきます ⇒ オンデマンド配信。

**インターネット環境があれば、場所を問わず視聴が可能ですので、周りの方も誘いの上、奮ってご参加ください。**

**建設材料性能証明について  
— 第三者証明の活用 —**

- ① **建設材料の証明事業について** (50分)  
(発表者:GBRC 性能評定課 津平)
- ② **材料証明の活用および建築系コンクリートの仕様書・指針改定の動向** (80分)  
講演者: **東京工芸大学 陣内浩 教授**

※申込みの案内（弊社HPやメール配信など）… **12月上旬**  
セミナー開催日（オンデマンド配信開始日）… **1月中旬**

※次年度以降からは建築CPD情報提供制度の認定プログラムとしての開催も検討させて頂く予定です。

 内容を一部変更する可能性があります。  
予めご了承ください。

## 【ワンポイント情報】性能証明取得への準備について

委員会での審議を円滑に進めるために、事前相談と当法人技術担当者との調整は非常に大切な工程です。事前相談と調整の際に確認させていただく内容を以下にまとめましたので、十分にご検討の上、準備をお進め下さい。(随時ご相談下さい)

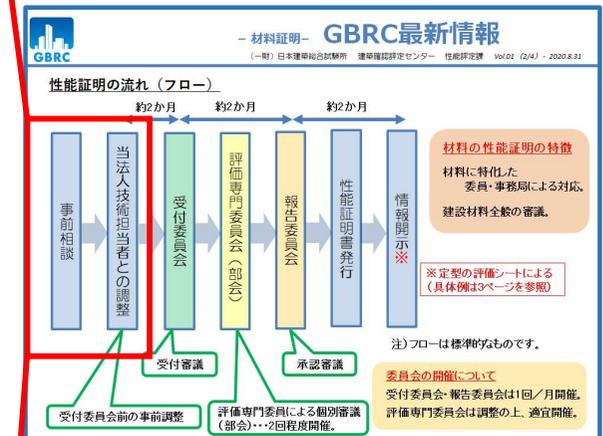
### 事前相談と調整

- 目標性能の設定 (目標性能の定量化)
- 適用範囲の明確化
- 性能証明のための説明資料(技術資料)の整備
- 申込技術の運用体制の整備 (マニュアル、実施体制の確立)
- 更新・改定(バージョンアップ)の可能性

👉 証明取得に関して相談事があれば、どんな些細なことでも結構ですので、お気軽にお声掛けください。お電話、メールなどのお問合せをお待ちしております。

事前相談

当法人技術担当者との調整



前号(Vol.01 20200831発行)掲載情報  
(前号のダウンロードはこちらから)

👉 本号と次号(2021年2月発行予定)で紹介しするワンポイント情報は、今回の「GBRC 材料技術セミナー」(2頁参照)でも分かりやすく説明させて頂く予定です。

## 【証明事例】環境負荷低減への取組み

『高炉スラグ微粉末を高含有したコンクリートを用いた、環境負荷低減への取組み』

証明内容の  
ポイント

「低環境負荷、断熱温度上昇量」

【この事例では、以下の性能が証明内容に組み込まれています】

- **低環境負荷**：普通セメント利用の同一強度の調合と比較してCO<sub>2</sub>排出量を約65%削減できる。(図A参照)
- **断熱温度上昇量**：証明対象のコンクリート(スラグリート)を含む4種類のコンクリートで比較した断熱温度上昇量は以下のとおり。(図B参照)

普通セメント>スラグリート、高炉セメントB種>スラグリート、中庸熱セメント≒スラグリート

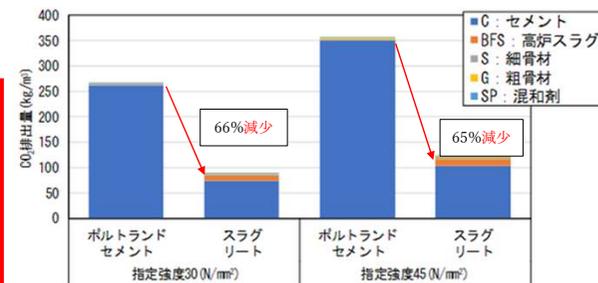
※これまでに、高炉スラグ微粉末を活用した環境負荷低減への取組みに関する技術について、複数の性能証明を実施してきました。それぞれの証明内容については、「評価シート」として閲覧できるようにHP上で公開していますので、ご興味があれば当法人のHPからご覧下さい。

([https://www.gbrc.or.jp/building\\_confirm/kentikuzairyo\\_shomei/list/](https://www.gbrc.or.jp/building_confirm/kentikuzairyo_shomei/list/))

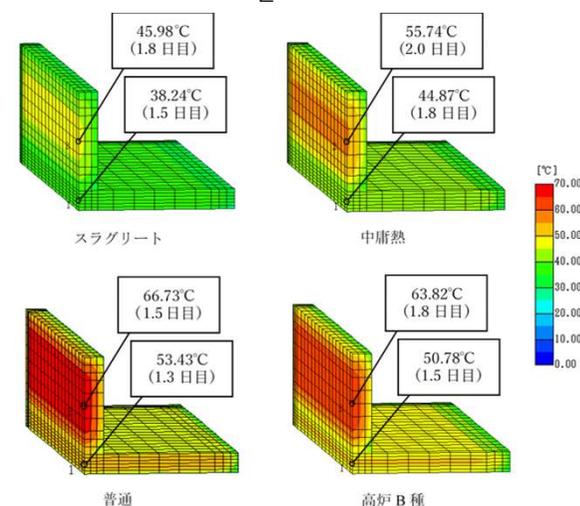
URLクリックでブラウザが立ち上がります。

★今回ご紹介しました「環境負荷低減への取組み」は、近年の社会的な要請もあって、今後のコンクリート産業において必須の課題です。同様な取組みで性能証明取得をご検討される場合は、是非お声がけ下さい。

<スラグリート/高炉スラグ微粉末を70%使用したコンクリート>  
GBRC性能証明 第20-01号 評価シートより



図A CO<sub>2</sub>排出量削減効果



図B 最高温度分布コンター図

## 2020年10月に制定・改正された主なJIS（詳細については、当該規格などでご確認下さい）

【制定】 製品規格	骨材	<p><b>JIS A 5011-5 コンクリート用スラグ骨材</b>  <b>第5部：石炭ガス化スラグ骨材</b></p> <p>従来の石炭火力発電と比べて発電効率が高く、環境負荷の低い石炭ガス化複合発電において副産される石炭ガス化スラグがコンクリート用スラグ骨材として細骨材のみJIS化されました。</p>	<p>当該材料に関連した材料証明や大臣認定をご検討される際には、ご留意下さい。</p>
	混和剤	<p><b>JIS A 6211 コンクリート用収縮低減剤</b></p> <p>長年に渡り実用されてきた収縮低減剤がコンクリートに悪影響を与えない品質を有し、より広範に普及することを目的にJIS化されました。なお、「JIS A 6204 コンクリート用化学混和剤」と区別するため、呼称は“混和剤”となります。品質試験はモルタルベースとなっています。</p>	
【改正】 製品規格		<p><b>JIS A 5005 コンクリート用碎石及び砕砂</b></p> <p>→「粒度試験」に供する試料について、呼び寸法0.075mmのふるいにとどまった試料以外に、微粒分量が少ない試料の場合には微粒分（呼び寸法0.075mm通過分）を含む試料でも可。</p>	<p>粒度試験に供する試料の取扱いが緩和されています。</p>
【改正】 試験方法		<p><b>JIS A 1101 コンクリートのスランプ試験方法</b>  <b>JIS A 1150 コンクリートのスランプフロー試験方法</b>  <b>JIS A 1158 試験に用いる骨材の縮分方法</b></p>	<p>特に試験実施者は改正内容をしっかりと確認し、実践できるようにしましょう！</p>

### 〔編集後記（永田）〕

本年度開催の材料技術セミナーは、私たち材料グループの初の試みとして、オンデマンド配信で行います。無観客状態での講演の様態を動画化しますので、例年とはまた違った印象のセミナーになるのではと今からドキドキワクワクしています。

発行者：一般財団法人 日本建築総合試験所  
 建築確認評定センター 建築確認評定部 性能評定課  
 担当者：荒井正直、坂本欣吾、津平公彦、永田洋一  
 連絡先：GBRC大阪事務所 TEL 06 - 6966 - 7600  
 E-mail：[seinou3@gbrc.or.jp](mailto:seinou3@gbrc.or.jp)